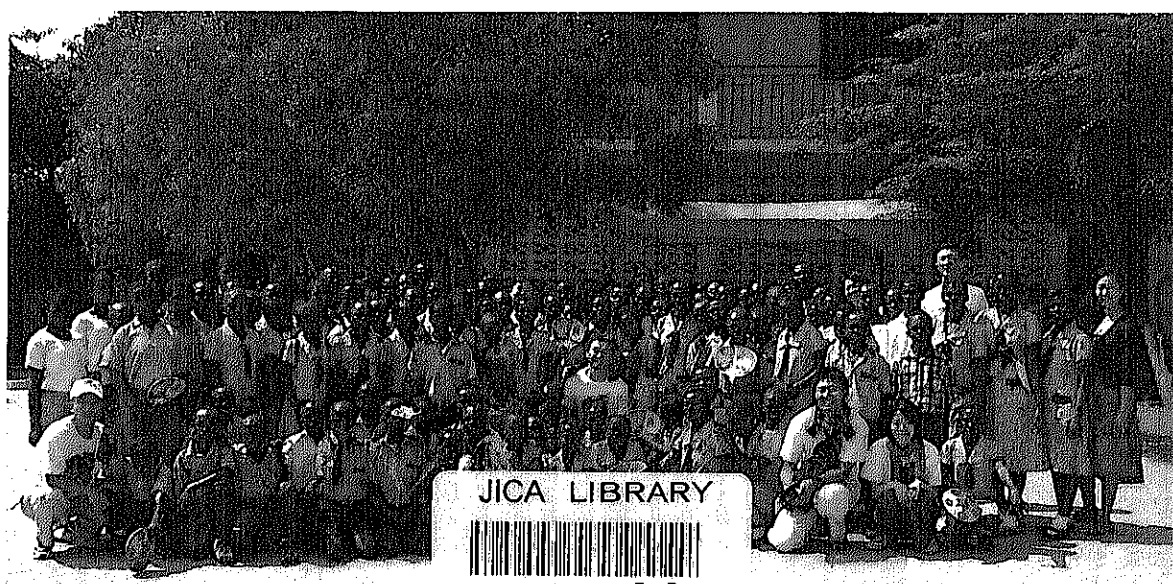


# 平成20年度 教師海外研修 報告書

【派遣国：ガーナ共和国】

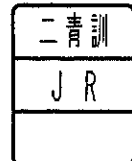


JICA LIBRARY  
1192260 [6]

写真提供：教師海外研修 参加者



独立行政法人 国際協力機構  
二本松青年海外協力隊訓練所





# 目 次

---

1. はじめに	
2. 写真集	
3. 参加者一覧／研修日程	1
4. 年間スケジュール／研修内容	2
5. ガーナ共和国 概要	7
6. 実践報告書	
青木由紀子 教諭 /福島県 福島県立いわき総合高等学校 (教科：福祉)	8
川野 貴光 教諭 /福島県 日本大学東北高等学校 (教科：数学)	18
大内 伸代 講師 /福島県 二本松市立二本松第一中学校 (教科：英語)	28
渡邊 太 講師 /福島県 福島市立平野小学校 (教科：全教科)	37
庄子 弘幸 教諭 /宮城県 名取市立第一中学校 (教科：英語)	46
会田 理恵 教諭 /山形県 山形県立霞城学園高等学校 (教科：商業)	56
大堤 直人 教諭 /秋田県 秋田市立秋田商業高等学校 (教科：英語)	66



1192260 [6]

# 1. はじめに

日頃より児童・生徒の皆さんの国際性の涵養やグローバルな視野・視点を持った指導・教育に取り組んでいらっしゃる教育関係者の皆様のご努力に感謝申し上げます。

そうした皆様に、より実践で役立つ手法や教材を豊富にさせていただこうと、JICAでは「開発教育支援事業」と称していくつかのプログラムを提供させていただいております。

その中のひとつが、教職員の皆様を対象として毎年実施している「教師海外研修」プログラムです。平成20年度にJICA二本松訓練所とJICA東北支部が合同で実施しましたこの研修プログラムに参加された教員の方が、研修後に各所属の学校で実際に実践された授業などの教育活動の状況について、本研修の実践報告集として取りまとめましたので、ここにお届けいたします。

この「教師海外研修」はJICAが国際協力事業を展開している開発途上国の現場を実際に見ていただいて、彼の地の人々との関わりやそこで行われている教育活動などを知っていただきながら、日本の教育現場での国際理解教育や開発教育の実践に役立てられる情報や知識や教育素材をさらに充実させていただこうとの趣旨で、毎年実施しているものです。

平成20年度は、参加者募集の公募に応募された方々の中から、福島、宮城、山形、秋田各県から7名の教員の皆様にご参加いただき、8月2日から8月14日まで、西アフリカのガーナ共和国で研修を行っていただきました。

ガーナは野口英世博士が黄熱病研究の途上に客死された地であり、福島をはじめ東北地方からの参加者にとっては少なからず縁を感じることでできる国での研修であったと思います。

ご参加の各先生方は、出発前の事前研修の段階から精力的に研修に取り組まれ、研修後はそれぞれの学校において、2学期という学校行事や教科あるいは課外活動の指導に大変多忙な学期であったにもかかわらず、大変すばらしい教育実践を行っていただきました。

「国際理解教育」あるいは「開発教育」は、いわゆる「教科」としての位置付けがなされていないので、多くの学校では「総合的な学習」の時間を活用した取り組みとなりがちです。

しかしながら、今年度の皆さんの実践に当たっては、教育の目標を定めた教育基本法第2条の第5号後段で「国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う」とあることを根拠に挙げ、また、学習指導要領の総則第1の2で定める「道徳教育」の目標にも合致するものであるとの論拠を持って、単に一部の意識・関心の強い教員有志だけが行うものではなく、すべての学校でどの教員もが取り組める普遍性を持ったものへと導くことを強く意識した実践の取り組みが行われていることが大変印象的です。

こうした教員の方々が、今後もネットワークを形成して研鑽や意見・情報交換の機会を継続して持たれ、「教育の目標」の達成に向けて、そして何よりこれからの国際化社会の中で日本の国を担う若い世代のしっかりとした育成に、国際理解教育や開発教育の実践がすべての学校に根づいていく広がりとなってくださるよう、皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

最後になりましたが、本研修の実施に当たってご協力をいただきました各県教育委員会、各学校長を始めご関係の皆様、ガーナで温かく研修を迎え入れてくださったご関係の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成21年3月  
独立行政法人国際協力機構  
二本松青年海外協力隊訓練所  
所長 表 孝雄  
東北支部  
支部長 甲斐 直樹



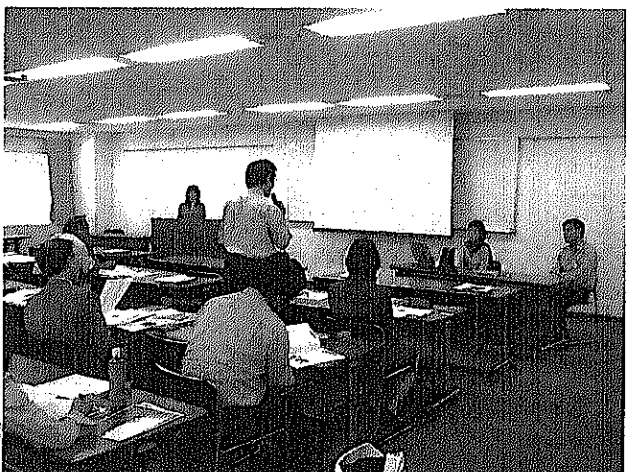
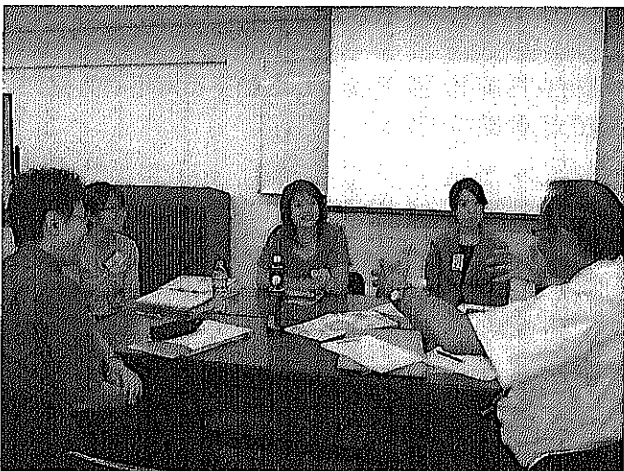
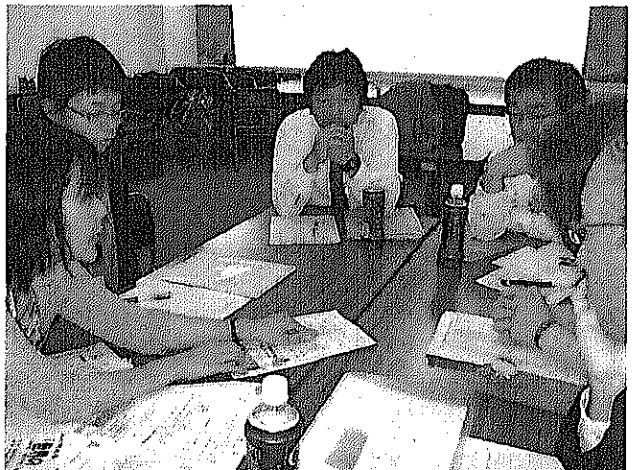
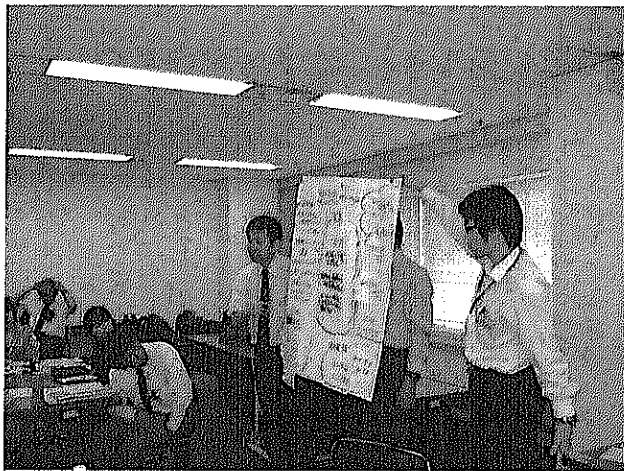
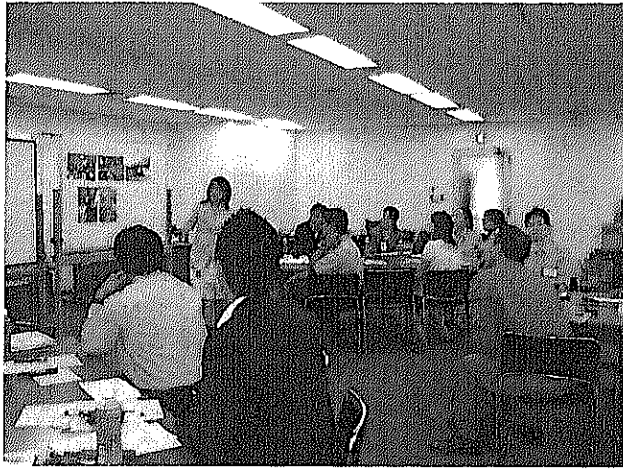


## 2. 写真集





# 国内事前研修



海外研修後の授業実践プランや授業作りのポイントについて、話し合う研修参加者の皆さん

## 海外研修



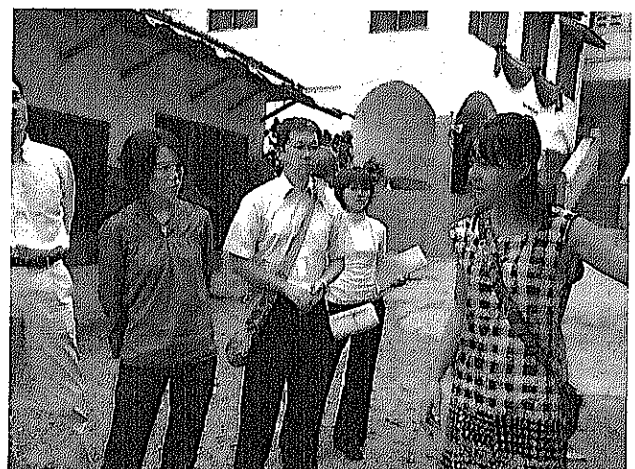
ガーナで息を引き取った野口英世博士。その記念庭園には博士の銅像が建立されています。



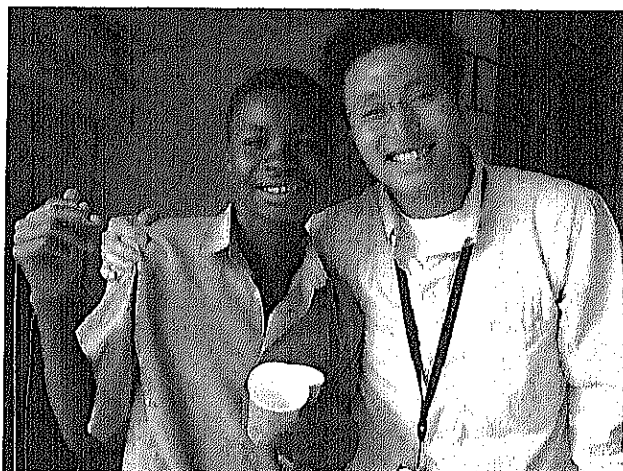
国際寄生虫対策西アフリカセンタープロジェクトにて、西アフリカにおける寄生虫対策についてのお話を伺いました。



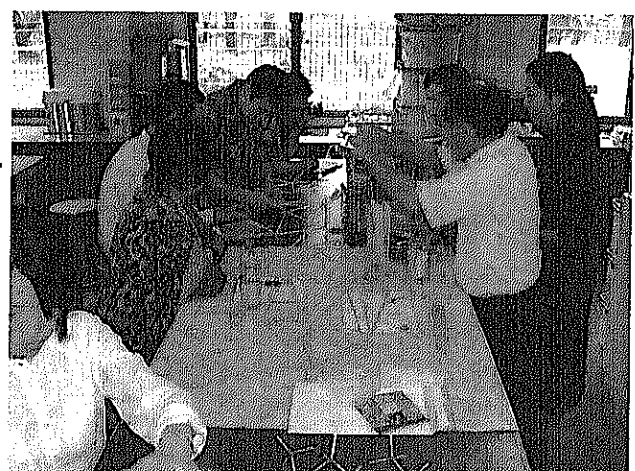
ガーナを代表するカカオ産業。その農園にて実際のカカオの実の収穫から作業工程を見学しました。



農村女性技術開発基金にて活動する青年海外協力隊の活動現場を訪問。

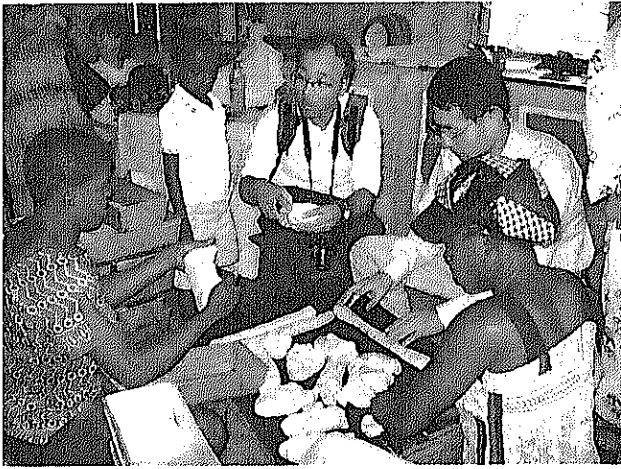


青年海外協力隊理数科教師隊員の授業にて。

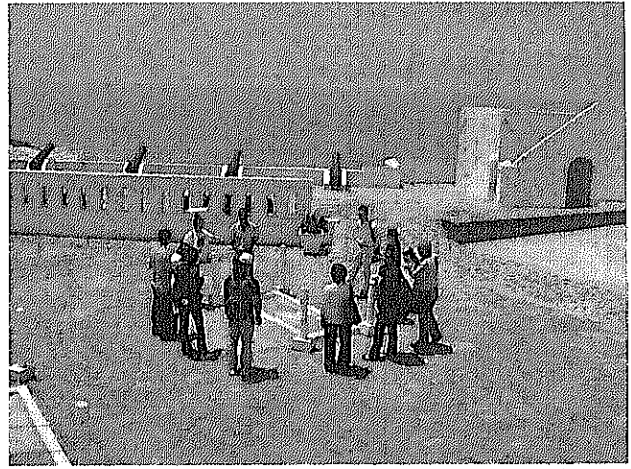


シニア海外ボランティアの活動。ここでは現地にあるものを有効活用した実験器具をいかに作るか。その意義と可能性とは？





ガーナ人のご家庭を訪問。半日一緒に過ごし、そのおもてなしの精神、考え方、生活の一端を感じることができました。



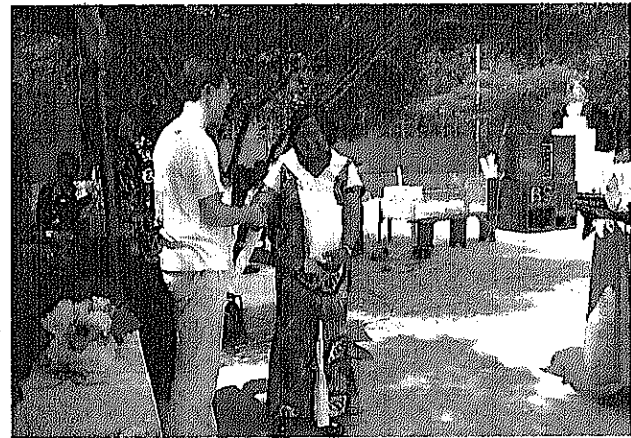
ケープコースト城の視察。かつての奴隷貿易の拠点であったところです。



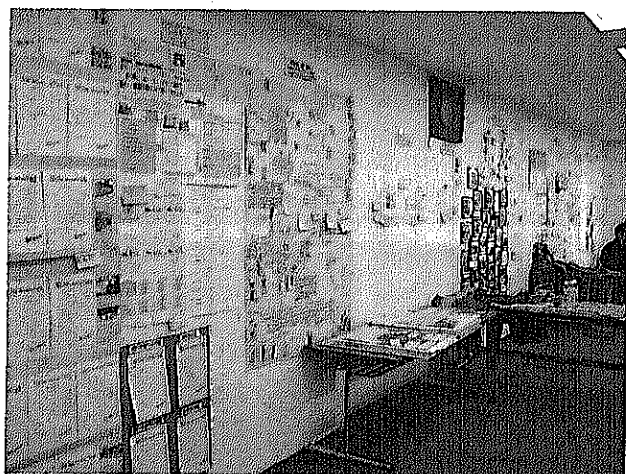
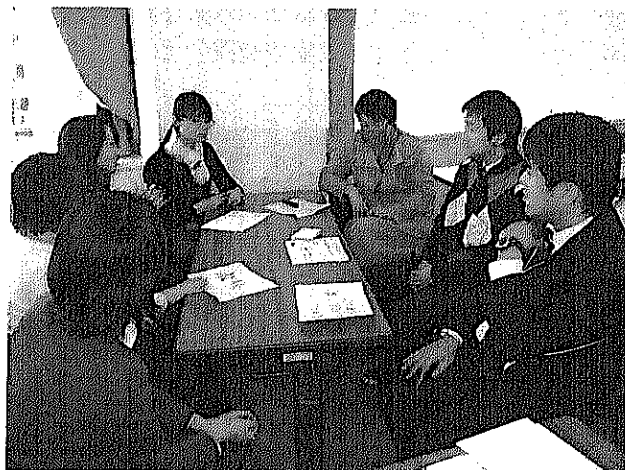
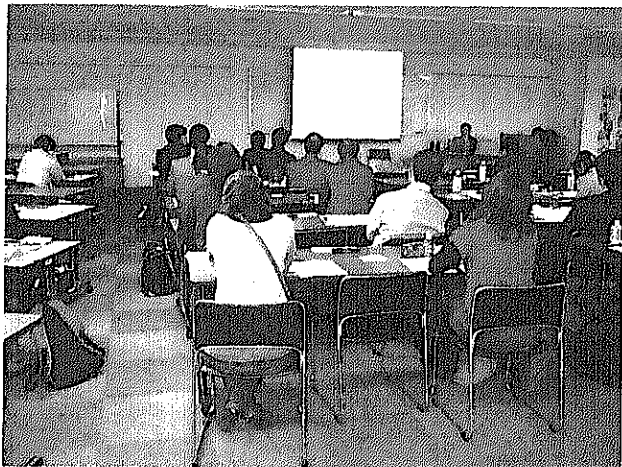
ちょっと路地を入ると子どもたちが元気いっぱい近づいてきて、ピース！



## 私立学校にて子どもたちとの交流会



# 実践報告会



JICA東北バングラデシュ研修参加者との合同により開催。

ガーナ研修の様子をはじめ、それぞれの先生が行った開発教育実践授業やその後の生徒反応などを紹介。今後の課題や取り組み等についても話し合われました。



### 3. 参加者一覧／研修日程



## 参加者一覧

参加者	学校名	教科
青木由紀子	福島県立いわき総合高等学校	福祉
川野貴光	日本大学東北高等学校	数学
大内伸代	二本松市立二本松第一中学校	英語
渡邊太	福島市立平野小学校	全教科
庄子弘幸	名取市立第一中学校	英語
会田理恵	山形県立霞城学園高等学校	商業
大堤直人	秋田市立秋田商業高等学校	英語

## 研修日程

参加者募集期間	平成20年4月18日～5月15日
参加者決定	平成20年5月21日
国内第一次事前研修	平成20年6月13日～6月14日 (JICA東北)
国内第二次事前研修	平成20年7月25日～7月26日 (JICA東北)
海外研修	平成20年8月2日～8月14日 (13日間)
実践報告会	平成20年1月31日～2月1日 (JICA東北)







## 4. 年間スケジュール／研修内容



## 国内第1次事前研修

1. 日時：平成20年6月13日(金)～6月14日(土)
2. 場所：JICA東北（宮城県仙台市）
3. 目的：
  - (1) 参加者間の情報共有と、渡航上の留意事項や日程概要に係る情報共有
  - (2) 帰国後の実践に向けての具体的なイメージ把握のための実践事例紹介
  - (3) 帰国後の継続的な国際理解教育実践に向けた“つながり”の機会の共有

### 4. 内容

#### 【1日目】

時 間	プ ロ グ ラ ム
13:30	開会 主催者挨拶
13:40	派遣国事情 I （バングラデシュ〔JICA東北派遣国〕） ・派遣国概要、生活について ・国際協力活動、現地の子どもたちについて
14:55	日程確認 I
15:15	事務手続き（ビザ申請について）
15:30	JICA事業説明 ・JICA事業全般説明 ・開発教育支援事業について
15:55	国際理解教育／開発教育について（参加者自己紹介、アイスブレイク） 〔講師：IVY理事 阿部眞理子氏〕
16:45	国際理解教育／開発教育実践に向けて ・国際理解教育における効果的手法について 事務連絡
17:30	終了

**【2日目】**（岩手・宮城内陸地震のため、プログラムを大幅に変更）

時 間	プ ロ グ ラ ム
9：45	事務連絡 派遣国の課題とその背景 I 〔講師：元ガーナ企画調整員／ボランティア調整員 佐藤 重一氏〕
10：40	学校教育現場・地域への還元 I ・ 学校教育現場・地域での還元、ネットワークについて
11：20	参加者間の交流 I ・ 県毎のネットワークの構築、情報提供
13：10	参加者間の交流 II ・ 派遣国毎の交流・役割分担 ・ 実践授業のイメージ、研修を通じての個人テーマ設定 ・ 派遣前・第2次研修までに行うことの確認 日程確認 II
15：40	閉会

## 国内第2次事前研修

1. 日時：平成20年7月25日(金)～7月26日(土)
2. 場所：JICA東北（宮城県仙台市）
3. 目的：
  - (1) 渡航直前時点における日程等の最終確認と参加者間の情報共有と打ち合わせ
  - (2) 帰国後の実践に向けての具体的イメージ把握のための、派遣国における課題の背景をつかんだ実践事例の紹介
  - (3) 帰国後の継続的な国際理解教育実践に向けた効果的な手法の紹介

【1日目】

時 間	プ ロ グ ラ ム
13:00	開会、事務連絡 日程確認 ・海外研修日程詳細説明（派遣国毎）
13:50	渡航上の留意点
14:30	派遣国の課題とその背景 II 〔講師：秋田大学工学資源学部准教授 坪井ひろみ氏〕
15:45	学校教育現場・地域への還元 II 〔講師：元協力隊／岩手県立宮古高等学校教諭 鈴木 竜矢氏〕
16:45	帰国後の実践イメージづくり・実践事例紹介 I 〔講師：教師海外研修過度参加者／青森南高等学校教諭 張間 亮氏〕
18:10	終了

【2日目】

時 間	プ ロ グ ラ ム
9:00	事務連絡 実践事例紹介 II〔講師：教師海外研修過度参加者／ 青森県横浜町立横浜中学校教諭 野澤 敬之氏〕
10:20	教材研究の視点（素材の活かし方）I ・素材研究の理論〔講師：早稲田大学文学学術院教授 山西 優二氏〕
13:00	教材研究の視点（素材の活かし方）II ・素材研究の演習〔講師：早稲田大学文学学術院教授 山西 優二氏〕
14:10	学校教育現場・地域への還元 III ・学校教育現場に必要なこと 〔講師：教師海外研修過度参加者／多賀城市教育委員会 小畑 幸彦氏〕
14:50	最終打ち合せ ・研修の視点の確認／派遣国毎最終確認
15:30	閉会

## 海外研修（ガーナ）

1. 日時：平成20年8月2日(土)～8月14日(木)〔13日間〕

2. 日程：

月 日	場 所	研 修 行 程
8月2日(土)	成 田	出発 (KL862)
8月3日(日)	アムステルダム	出発
	ア ク ラ	到着 (KL589)
8月4日(月)	JICAガーナ事務所	事前ブリーフィング (安全対策・健康管理など)
	コ レ ブ 病 院	野口記念資料室・庭園視察
		昼食 (コレブ病院内食堂)
	テ マ の 漁 港	日本の無償資金協力によって改修工事を行った部分、 およびフィッシュマーケット視察
8月5日(火)	ガ ー ナ 大 学	国際寄生虫対策西アフリカセンタープロジェクト視察 ・専門家によるガーナにおける寄生虫に関するお話 野口記念医学研究所 ・福島県にて研修経験のある帰国研修員による施設案内
	ア ク ロ ボ ン	カカオ農園視察
8月6日(水)	農村女性技術開発基金	青年海外協力隊活動視察 (手工芸)
		バティック作り・施設内見学
8月7日(木)	ジュアベン高等学校	青年海外協力隊活動視察 (理数科教師)
		隊員による模擬授業視察、隊員へのインタビューなど
		クマシ周辺視察 (マーケット・王宮など)
8月8日(金)	ウェズリー教員養成校	シニア海外ボランティア活動視察
8月9日(土)	タ ー ク ワ	ホームビジット (タークワ)
		タークワ出発
8月10日(日)	エ ル ミ ナ	ケープコースト城視察
8月11日(月)	カ ソ ア	Mary Star of the Sea International
		現地児童・生徒との交流会
8月12日(火)	在ガーナ日本国大使館	表敬訪問
		空港へ移動
	コトカ国際空港	アクラ発 (KL590)
8月13日(水)	アムステルダム	到着
8月14日(木)	成 田	到着 (KL861)

## 実践報告会

1. 日時：平成21年1月31日(土)～2月1日(日)
2. 場所：JICA東北（宮城県仙台市）

	時間	プログラム
一 日 目	10:00	派遣国紹介、ポスターセッション準備
	11:00	開会 派遣国紹介（ガーナ）
	11:30	派遣国紹介（バングラデシュ）
	13:00	実践報告（ガーナ／バングラデシュ研修参加者〔11名〕）
	18:30	終了
二 日 目	9:00	実践報告（ガーナ／バングラデシュ研修参加者〔4名〕）
	11:00	過年度参加者からの報告 〔講師：福島県福島市立湯野小学校教諭 松本 大光氏〕 〔講師：秋田県横手市立雄物川中学校教諭 藤倉 欣浩氏〕
	13:00	全体共有 ・今後の取り組みや課題について 講師講演〔講師：宮城教育大学付属国際理解教育研究センター 准教授 市瀬 智紀氏〕
	15:30	閉会

1日目の1月31日11時からのプログラムから一般公開し、過去の教師海外研修参加者や東北各県から多数の教員、大学生が参加し、実践事例と国際理解教育／開発教育の現状および課題を共有しました。







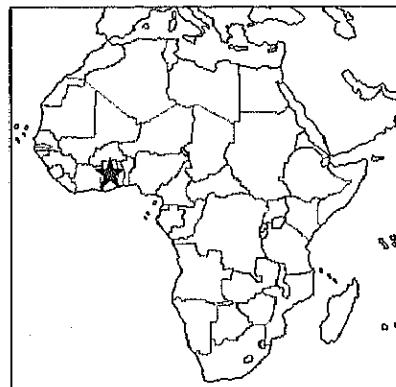
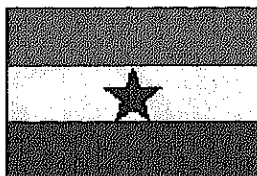
## 5. ガーナ共和国 概要



## ガーナ共和国 概要

### ◆主要データ

#### ガーナ共和国 (Republic of Ghana)



- ・首都：アクラ
- ・面積：238,537平方km  
(日本の約3分の2)
- ・人口：約2,300万人 (2007年：UNFPA)
- ・民族：アカン族、ガ族、エベ族、ダゴンバ族、マンプルシ族など
- ・言語：英語 (公用語)
- ・宗教：国民の約半数がキリスト教徒、イスラム教約15%、その他伝統的宗教
- ・通貨：ガーナセディ (1ドル=約1.12ガーナセディ 2008.10.15現在)
- ・略史：13世紀から16世紀初期に現在のガーナ主要民族が西方より移住。15世紀中ごろからポルトガルなどのヨーロッパ人が渡来。金や象牙、奴隷などの貿易が行われる。1873年英国が保護領化し1957年に英国の自治領として独立。
- ・気候：熱帯性気候で、気温は3月が最高となり、8月が最も涼しい。雨季はおおむね3月から9月の間で、南西部を除き全般的に雨量は少ない。湿度は、北部地方以外は80%前後である。





## 6. 実践報告書



## 国際理解・国際協力とノーマライゼーション

氏名	青木由紀子
学校名	福島県立いわき総合高等学校
担当教科名	福祉
実践教科名	福祉・ボランティア
時間数	8時間
対象生徒(学年)	3年次
対象人数	22名

### I. 実践授業のねらい

この「福祉・ボランティア」という授業は、福祉やボランティアに興味のある3年次生が選択している福祉科目の中の学校設定科目である。前期「第1編 現代社会と社会福祉 第1章 現代の日本社会と福祉の視点 1 現代社会と社会福祉」という単元の中で世界の様々な国々の現状と日本の現状を比較し、豊かである国日本を学んできた。その中で「地雷ではなく花束をください。」という絵本の読み聞かせを行ったところ、「そういう国が今あるんだ。」「募金とか鉛筆を送るとか私たちに何かできないか?」という感想が多くあり、世界の情勢を知らない生徒がいる反面、慈善的意味合いは強いが、困っている人のために何かしてあげたいと思っている生徒も多くいるということが分かった。本授業は高等学校学習指導要領「福祉編・社会福祉基礎」に準拠し、授業を展開しており、本単元では高等学校学習指導要領「福祉編・社会福祉基礎」のねらいである「社会福祉の向上を図る能力と態度を育てる」を具現化した内容⑤社会福祉の担い手と福祉社会への展望における具体的なねらい「これからの福祉社会を創造する上で重要な、人権の尊重やノーマライゼーション、バリアフリー・ユニバーサルデザインなどについて理解する。」により、ノーマライゼーションに力点を置いて内容を構成した。ガーナ共和国視察研修の体験をもとにその地理と歴史、生活の様子、野口博士の4項目を軸に、教科書「第5編 社会福祉の担い手と福祉社会への展望 第3章 21世紀福祉社会の展望 3 国際的な視点に立って」の内容にそって、授業を展開する中で国際交流・国際理解・国際協力に対する興味・関心を高めていきたいと考え本単元を設定した。また生徒達にガーナ共和国をより身近に感じてほしいと考え、各テーマごとに毎回20分程度の小授業を8回、約2ヶ月にわたって展開することとした。本授業を展開するにあたっては、各小授業の最後に生徒の反応をもとにテーマを決め感想をまとめるという振り返り作業を設定することで生徒の理解度を確認したいと考えた。これらの学習活動を通して、多種多様な価値観（世界にはいろいろな国が存在し、様々な人々が住み、それぞれ違った衣・食・住の文化や伝統、歴史をもっている。）によって世界は成り立っていることを再確認させながら、21世紀の福祉社会を築いていくためには国際的・福祉的視点に立ち、国際理解・国際協力に対する意識を持って、日本の文化を誇りに思いながら、世界中の多種多様な価値観を尊重しながら「ノーマライゼーション」の視点に立ち、生きてこうとする姿勢こそが大切であることに気づかせたい。そしてそのためには自分たちはどんなことを考えていけば良いのか、どういう行動をとっていけばよいのかという方向性についても理解させたいと考えた。

## II. 授業の構成

単元名		「ガーナで国際理解・国際協力」	
		第5編 社会福祉の担い手と福祉社会への展望 第3章 21世紀福祉社会の展望 3 国際的な視点に立って	
時限	小単元名	授業のねらいと授業の内容 ※◎は授業のねらい	
プレ 1	先生への宿題	◎ガーナ共和国への関心を高める。 ・ JICAエッセイコンテストのポスターの写真を見る。 ・ ガーナで見てきて欲しい事を作文にまとめる。	
1	ガーナってどこ？ 10月7日	◎アフリカの国々の地理を知る。 ・ 世界白地図で、日本、朝鮮民主主義人民共和国、大韓民国、中国、ロシア、インド、アメリカ、カナダ、メキシコ、ブラジル、チリ、スペイン、フランス、イタリア、イラン、シエラレオネ、トーゴ、ブルキナファソ、コートジボアール、ガーナの場所をマーキングする。 ・ 各国の正確な位置を確認する。	
2	野口英世博士って知ってる？ 10月14日	◎身近な同県有名人野口博士のQ&Aを通して野口博士について理解を深める。 ・ 野口英世記念館のワークシートQ&Aの問題を解く。 ・ 野口博士の伝記を聞く。 ・ 作文にまとめる。	
3	ガーナのおんぶを体験しよう。 10月21日	◎ガーナ共和国のおんぶ体験を通してガーナ人の文化を理解する。 ・ ガーナのおんぶ人形や薪運び人形を見る。 ・ ガーナ式おんぶを体験する。 ・ おんぶ体験の感想や気づいたことをまとめ、発表する。	
4	アイヌのユーカリ、ハワイのフラ、そしてジャンベ 11月18日	◎世界中には伝達手段としてアイヌには神謡、ハワイにはフラ、ガーナ共和国にはジャンベがあることを知り、それぞれ優劣つけがたい文化であることに気づく。 ・ 「アイヌ神謡集」の本の読み聞かせを聞く。 ・ ハワイのフラミュージックを聴く。 ・ 「あふりかのたいこ」の絵本の読み聞かせを聞く。 ・ ジャンベを各自で演奏する。 ・ 様々な表現手段について、感想や気づいたことをまとめる。	
5	ガーナの手作りシアバターをつかってみよう 11月25日	◎ガーナ共和国の手作りシアバターの値段と大手メーカーのシアバターの値段に倍以上の差があるのかを考えることにより、経済市場におけるガーナ共和国の置かれている現状を理解する。 ・ ガーナ産と大手メーカーのシアバターの触感を確認する。 ・ 値段の違いについて意見を発表する。 ・ 感想や気づいたことを作文にまとめる。	
6	奴隷貿易（アフリカンビーズ） 12月2日	◎当時の黒人奴隷の話聞きその非人間的な行動について考える。 ・ ケープコースト城の写真を見る。 ・ ケープコースト城の様子や奴隷の話聞く。 ・ 「サラガのバオバブ」の絵本の読み聞かせを聞く。 ・ 感想や気づいたことを作文にまとめる。	



7	ガーナのチョコレートと日本のチョコレート 12月9日	<p>◎ガーナのチョコレートと日本のメーカーのチョコレートの食感の違いを味わい、世界有数のカカオ生産量を誇るガーナのチョコレートの生産技術からガーナ共和国の現状を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガーナのチョコレートと日本のチョコレートを味わう。</li> <li>・感想や気づいたことを作文にまとめる。</li> </ul>
8	ガーナで国際理解・国際協力 12月16日	<p>◎国際協力・国際理解の意識を持つために自分はどんなことをすればよいのかを具体的に考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の抱えている多様な課題について考える。</li> <li>・私たちは日本のことだけを考えていてよいのかを考え、発表する。</li> <li>・グローバルな視点に立つことが何故大切なのか考え、発表する。</li> <li>・8回にわたる授業を振り返って、開発途上国の抱える諸問題について考える。</li> <li>・開発途上国における国境なき医師団、WHO、ユニセフ、JICAなどの様々な活躍について知る。</li> <li>・本校のJRCの先輩が日本赤十字社の国際交流でフィリピンに派遣されるなど身近なところにも活躍している人を知ることを知る。</li> <li>・国際文化交流劇団曼珠沙華の活躍について知る。</li> <li>・中国四川省大地震（2008/5/12）の災害に対し、日本をはじめ世界各国が物資や人的支援を行ったことを知る。</li> <li>・中国四川省大地震や阪神淡路大震災などに対して国境を超えた災害援助が行われたことを知り、国際協力の必要性について考える。</li> <li>・その国際協力は、中国四川省大地震や阪神淡路大震災などの大規模な災害のときだけに行われればよいのかを考える。</li> <li>・国際理解の意識を持つためにこれから自分はどんなことを考えればよいのか、また具体的にどんなことをすればよいのかを作文にまとめる。</li> </ul>

### Ⅲ. 授業の詳細

#### 各授業の生徒の様子と反応 ※太字 生徒の複数の感想 ( ) 内は筆者の加筆

プレ1時限	小単元名 「先生への宿題」	使用教材
生徒たちからの質問や疑問の内容	<p>・貧しいガーナは何が必要か・子ども達の現状・裕福層と貧乏層との格差・健康状態・どんな食べ物があるか・主食・一日に何食か・地雷の地帯は？・戦争の影響・医療や、福祉などの施設やその制度は・頭のかごにどんな物がどのくらい入っているのか・家の作り（お風呂、寝床）・服装は？・子どもたちの夢？・子ども達の勉強・子ども達は楽しくて生活しているか・野口英世のことを知っているのか・カカオ農園で働く子ども達がチョコレートをほんとに食べたことがないのか・学校の造り、子どもの数・どんな楽器があるか・広大な自然と動物・植物・土の色は？・空気の色は？・奴隷の差別・ガーナの歴史</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JICAエッセイコンテストのポスター</li> <li>・日本赤十字ポスター</li> </ul>

1時限	小単元名「ガーナってどこ？」	使用教材
生徒の反応	世界白地図を用いて各国名を書き込んでいったところ、日本、朝鮮民主主義人民共和国、大韓民国、中国、ロシア、インド、アメリカ、カナダ、メキシコ、ブラジル、チリ、スペイン、フランス、イタリアなどは多くの生徒が正解したがシエラレオネ、トーゴ、ブルキナファソ、コートジボアール、ガーナなどはほとんどの生徒が位置や国名も分からなかった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界白地図</li> <li>・地図帳</li> <li>・色鉛筆</li> </ul>
授業をふりかえった生徒の感想	<p>Q 何故アフリカの国ぐにの位置が分からなかったのかを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本から遠いし、衛生的に安全でないからジャーナリストも行かないから、その国の事情が分からないから。</li> <li>・身近ではないから。</li> <li>・授業で習わないから。(ガーナ特集などの)放送がない。</li> <li>・地理が苦手だから。</li> <li>・ガーナが有名じゃないから。</li> <li>・有名なものがないから。</li> <li>・日本とかかわりがない。</li> <li>・観光地じゃないから。</li> <li>・アフリカは細かい国がいっぱいだから。</li> <li>・テレビなどではガーナ共和国ではなく、アフリカという一つのくくりで紹介されているように思うから。</li> <li>・アフリカは経済的に発展していないから日本には情報がこない。</li> <li>・アフリカに興味がないから。</li> <li>・日本の歴史に出てこない。</li> <li>・ガーナのことは新聞やニュースで取り上げられないから。</li> </ul>	
2時限	小単元名「野口英世博士って知ってる？」	使用教材
生徒の反応	郷土(福島県出身)の偉人野口博士についてのワークシートQ&Aでは10問中4問以上分かった生徒は皆無だった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野口英世記念館</li> <li>ワークシートQ&amp;A</li> <li>・伝記「野口英世」</li> </ul>
授業をふりかえった生徒の感想	<p>Q 何故野口英世博士を知らなかったのかを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「野口英世」「黄熱病」などの単語だけが一人歩きして生涯や人物像がよく分からなかった。</li> <li>・お礼で当たり前のように見ていたが興味を持たなかった。</li> <li>・学校で野口英世のことは習わなかった。</li> <li>・野口記念館に行ったことはあるが詳しく知りたいとは思わなかった。</li> <li>・顔や名前は分かっていたが野口英世には興味がなかった。</li> <li>・小学校のときに詳しく学んで、劇をやったけれど忘れてしまった。</li> <li>・野口さんのことは学ぼうとは思わない。</li> <li>・メディアで詳しく取り上げなかったから。</li> <li>・野口英世博士は有名で素晴らしい人だとは知っているが詳しくは知らなかった。</li> <li>・野口英世博士の名前は有名だから知っているつもりで実際は興味を持って調べようと思っていなかった。</li> <li>・名前を知っているが詳しくは知らなかった。</li> <li>・福島の偉人である野口英世のことをもっとよく知っておくべきだ。</li> <li>・名前は知っているても何をしたかが分からない人が多いが知りたいとは思わない。</li> </ul>	
3時限	小単元名「ガーナのおんぶを体験しよう。」	使用教材
生徒の反応	ガーナの生活の特徴を感じてもらおうとガーナの人形を見せると人形がピアスをしていることや服の色の明るさや肌の色などに「かわいい」と言う生徒が多かった。嫌がりながら、恥ずかしがりながらも日本のおんぶとは違ったおんぶの仕方を体験した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガーナのおんぶ人形</li> <li>・まき運び人形</li> </ul>

授業をふりかえった生徒の感想	<p>Q ガーナのおんぶを実際に体験して感じたことをまとめよう。</p> <p>・母親の身体に密着していられるので母親のぬくもりをじかに感じることができると思う。・赤ちゃんを大事にしているんだな。・(布だけのおんぶだけど) 意外としっかりしていて文化の違いに驚いた。・子どもが苦しそうな巻き方だが実際にやってみると(それよりも) 落ちる危険性があり少し怖かった。・ずっと一緒にいて愛情いっぱいに赤ちゃんを育てられそうだ。・背中に赤ちゃんをおんぶしながら働くのは大変だ。ガーナのお母さんは凄いなと思った。・布一枚で赤ちゃんをおんぶし頭に重い荷物をのせて運ぶなんてありえない感じ。・ガーナのお母さんはおんぶして、そしてスイカを頭にのせて運ぶなんてびっくりした。・背中に子どもを背負って頭に物をのせて売っているなんて強いお母さん。やっぱり世界のどこのお母さんも強いんだな。・実際体験したら安全で工夫されているんだなと思った。・ガーナのおんぶ(の仕方)は難しかった。・どこの国でも赤ちゃんは背負うんだな。・落ちそうで不安だった。・この格好で家事をしているなんてガーナのお母さんは凄い。・おんぶは簡単にできるけど赤ちゃんがずり落ちてきそうだった。・赤ちゃんはお母さんの背中にぴったりくっついていて前の風景も何も見えなくてさびしくないのだろうか。・前抱っこはしないのかな。・ガーナの女の子は赤ちゃんのときからピアスをするなんて驚いた。・日本のおんぶのほうがしっかりしている。</p>	
4時限	小単元名「アイヌの神謡、ハワイのフラ、そしてジャンベ」	使用教材
生徒の反応	<p>アイヌ人とは北海道にいる日本の原住民という生徒がいたが、神謡のことを知っている生徒はあまりいなかった。ハワイアンダンスの音楽を流すと、「フラガールっぽい。(いわきを舞台にした映画)」という生徒がいたり、「ハワイアンズ(いわき市内の観光ホテル名)で流れている音楽!」という生徒が多くいたりした。フラのダンスの中の手の動きに言葉としての意味があることは知らなかった。ガーナのジャンベやドントの音の響き方や大きさ、音の高低の出し方を確かめるように鳴らしていた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本「あふりかのたいこ」</li> <li>・詩集「アイヌ神謡集」</li> <li>・ハワイアンミュージック</li> <li>・ジャンベ</li> <li>・ドント</li> </ul>
授業をふりかえった生徒の感想	<p>Q アイヌの神謡、ハワイのフラ、そしてジャンベという文化の違いにどんなことを感じたかまとめよう。</p> <p>・ハワイのフラは手話に似ている。・ジャンベは遠くにいる人にも音が響くから伝えやすい。・アイヌの神謡の語りを聞いてみたい。・ジャンベを使った現地の人の会話は難しそうだけど実際に聴いてみたい。・いろんな視点から様々な考え方、見方ができるように自分の目で確かめて吸収していきたいと思った。・アイヌ人には文字文化がないことに驚いた。・ガーナの子どもはみんな太鼓ができると知って凄い。ジャンベの音を鳴らしてみてもおもしろかった。・実際にフラをやったとき、体や指先、手の動きで自分の感情を表すのはものすごく難しかった。国によって伝え方は色々だなあと思った。楽しかった。・ジャンベの技術は素晴らしいのでこれからも続けていって欲しい。</p>	

5 時限	小単元名「ガーナの手作りシアバター」	使用教材
生徒の反応	<p>【ガーナの手作りシアバターの感想】</p> <p>・匂いがきつい。・ぬった後がベタベタ。・みために抵抗があったが保湿力があり、使い心地もよい。・硬い。・木の入れ物がかわいい。・伸びなかった。・しっとり濃厚。天然で優しい感じ。・一生懸命作った感じがする。</p> <p>【大手メーカーのシアバターの感想】</p> <p>・ぬった後がサラサラしている。凄くおしゃれでかわいい。</p> <p>・柔らか。ガーナのシアバターと同じ。・加工してる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ガーナの手作りシアバター</li> <li>・ 大手メーカーのシアバター</li> </ul>
授業をふりかえった生徒の感想	<p>Q ガーナの手作りシアバターと大手メーカーのシアバターの値段の違いについてその理由を考えて感想をまとめよう。</p> <p>・ 大手メーカーのシアバターはきれいにろ過するから。・ シアをわざわざガーナに買い付けに行っているから。・ ガーナの物価が安いから。・ 匂いの違い。・ 輸送にお金がかかるから。・ ガーナのシアバターは変に加工したり先進国などのように高級な物にしようという意識がないため安いのではないか。・ 今シアバターがよく効くという評判が高いのでその分値段をあげ利益を向上させていくため。・ 先進国のシアバターは色や臭いのばらつきがなく加工しているから。・ ブランド名で高い。・ 先進国のシアバターは利益を追求しているがガーナはそこまで利益を追求しないから。・ 人件費の違い。・ 発展途上国は働いても給料が低いから値段が違う。</p>	
6 時限	小単元名「奴隷貿易」	使用教材
生徒の反応	<p>ケープコースト城の写真を見せながら、ケープコースト城内の「ドア オブ ノー リターン」や「ドア オブ リターン」の扉やガイドの方の石版の話や城内の地下にある奴隷収容室の間取りや様子、においなどを具体的に話し出すと、教室中が静まりかえり、全員真剣に話しに聞き入った。なかでもその奴隷収容室で、奴隷がどういうふう収容されていたのか、収容されているうちどれだけの人が亡くなり、生き残った人もどんなに痩せてしまったかなどを具体的に話し出すと「ひどいっ。」「うっそー。」「信じられない。」「ありえないし。」との声上がり、その聞いた内容を何度も確かめるように聞き返す生徒もいた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アフリカンビーズ</li> <li>・ 絵本「サラガのバオバブ」</li> <li>・ ケープコースト城の写真</li> <li>・ ガーナの写真葉書</li> </ul>
授業をふりかえった生徒の感想	<p>Q 奴隷貿易について感じたことをまとめよう。</p> <p>・ 黒人を一人の人間としてではなく道具としてみていたことが悲しい。・ 同じ人間なのに人が人を売るなんて考えられない。・ ヨーロッパ人ではなく、黒人が黒人を売っていることに驚いた。・ 人はお互い助け合わなければならないのにひどい。・ (奴隷貿易の悲惨な話を聞いて) 悲しい気持ちになった。・ 将来ケープコースト城に行ってみたい。・ (奴隷貿易は) 絶対にしてはならないことだ。・ (奴隷貿易がなかった) 日本に生まれてこれてよかった。・ (先生の奴隷貿易の話を) 聞いているだけでぞっとした。・ 先生が実際にガーナに行って聞いてきた話とは思えなかった(昔、現実におきていた話とは思えなかった)。・ 人種差別はあってはならないことだ。・ 昔の人はどうしてこんなひどいことができたんだろう。・ 日本人だって同じようなこと(人身売買)をしている。(人身売買のない) 現代に生まれてきて良かった。・ (この奴隷貿易の話は聞いているだけで) とても嫌な気持ちになった。</p>	

7時限	小単元名「ガーナのチョコレートと大手メーカーのチョコレート」	使用教材
生徒の反応	<p>【ガーナのチョコレートの感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・硬い。・歯ざわりがざらざら、ぱさぱさ、粉っぽい。・手触りも粉っぽい・甘くない。おいしい。・噛んだあと粘土（砂）みたい。・素朴な味。・色が白い。・苦い。・味が無い。</li> </ul> <p>【日本のチョコレートの感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・甘い・日本のチョコが一番。・美味しい。・食べ慣れている味。・とけやすかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガーナのチョコレート</li> <li>・日本のチョコレート</li> </ul>
授業をふりかえった生徒の感想	<p>Q ガーナのチョコレートを食べて考えたことをまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現地の子ども達はチョコレートが食べれないなんてかわいそう。・国によって加工の仕方や原料（カカオ以外の）も違うから味が変わってくるのは分かるけど、日本ではなんでこんなに美味しく作れるのかなあと思う。・もっと世界各国のチョコを試してみたい。・日本のチョコレートは水あめとかいろいろ入っているから、ガーナのチョコレートは安全だ。・日本に生まれてよかった。・ガーナはチョコレートを作る技術は進んでいない。・（ガーナのチョコレートは）日本より値段が高いのに（味が）残念。・日本のチョコレートとガーナのチョコレートは色や味が違う。同じガーナのカカオを使っているのにどうしてこんなに味も違うし、値段も違うんだろう。・日本のチョコレートは加工されてどのくらい砂糖を入れているんだろう。・日本のチョコレートは一番美味しいけど、一番体に悪そう。・チョコの味一つでその国の文化みたいなものがあるなーと思った。</li> </ul>	
8時限	小単元名「ガーナで国際理解・国際協力」	
全授業をふりかえって国際理解・国際協力に関する生徒の感想	<p>Q 日本のことだけを考えて行動するのは何故まずいのかを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のことだけを考えると何かあったときに頼れる人がいない。周りの様子が分からなくなって孤立してしまう。まわりの困っている人たちに気づけない。・いろいろな国によって手助けしてもらって「日本」は成り立っているから世界中が協力しながら生活すべき。・平和な世界は作れない。・他国との支えあいが必要。・世界に、地球に住んでいるのは日本人だけではない。・日本は特に輸入に頼っているから他国を考えなければならない。他国との関係を崩さないようにしなければならない。・地球は一つでつながっている。・自分一人だけじゃ何もできないし日本一つの国だけではできないこともたくさんある。・世界との協力があったり仲良くしたりすることで貿易もできる。・日本は医療とか様々な技術が発展しているのにそれを日本だけで使うのではなく、困っている国の人々のために使ってあげるべきだ。</li> </ul> <p>Q 国際交流・国際協力は大規模な災害の時だけでよいのかを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震の時だけでは国際交流とはいえない。国民一人ひとりが何らかの機会でも国際交流ができるようにした方がよい。・いつ災害が起こるか分からないからこそ国際交流が大切で必要だ。・災害時だけでなく定期的に（開発途上国へ）服や食料を送ったり支援すべき。・教育とか貧困に対しても積極的に支援すべき。・大きな災害だけでなく（目立たない災害にも）日本のような技術のある国は協力すべき。・定期的に交流を持つことで互いが理解できて絆が強まり国際協力が生まれる。・ちょっとしたことでも助け合いは大切。・もっと頻繁に（交流を）行えないのか。・大規模な災害だけで良い。小さな災害にまで手伝ってしまうと自分たちが災害にあった時の物資が少なくなってしまう。・その国と仲がよかったら支援すればよい。</li> </ul>	

全授業をふりかえって国際理解・国際協力に関する生徒の感想	Q 国際理解の意識を持つために自分はどんな事をすればよいだろう。
	<p>・一人が行動すれば全体に広がっていくきっかけになるのでまずは自分から他国の情報を調べたり、学んだりしていくことが大事。・新聞やテレビで戦争をしている国の状況をみんなに知らせ、みんなで世界の平和について考える。・世界には困っている人がいる。私たちは何の不自由もない生活ができるのは国内外の人びとの支えがあるから。だから私も困っている人を助けたい。世界の国ぐにも興味が湧いてくる。まず、私個人が日本が誰かに助けられているという意識を持つべきだ。・世界に目を向け、何事にも興味を持つことが大切。・常に相手を思いやること。・このガーナの授業で知ったように様々な国を知るべき、調べるべき。何も知らないで「かわいそう。」とか「大変なんだね。」といていて何も変わらない。・世界の中の日本の立場を知る。・自分の国じゃないからという概念をなくす。・偏見を失くし、他国を尊重する。・募金したり、着れない服を回収ボックスへ。・無理に分かろうとしないで、相手と自分の違いを見つけよい部分は見習い、悪い部分は協力してなおす。・教科書で習っていないから知らないのではなく自分から関心を持たなければならないのではないか。・新聞やニュース等をよく見る。・(困っている) 国の問題は世界全体の問題。協力して助け合うという思いやりやその国に興味を持つことが国際理解の意識を持てるようになること。・日本のことだけを考えるのはよくないがそれは政治家や国会議員輸出入で関わる人が知るべき。私個人としては興味がなければ別に(知らなくても) よい。</p>

#### IV. 実践授業の成果 ※ ( ) 内は筆者の加筆

本実践授業のプレ1時限として生徒達に「先生への宿題」を書かせた。するとガーナ共和国のイメージは「どれくらい貧しいのか。・ご飯は一日に何食か・地雷の地帯は?・戦争の影響は?・子どもたちの夢は?・子ども達はどんなことを勉強しているのか。・子ども達は楽しくて生活しているか。」という先進国に対しては持たないだろうイメージを抱いていたことが分かった。本実践授業の1・2時限の振り返り作業の中でアフリカの国々の位置や野口博士の生涯について分からなかった理由として「身近ではない・授業で習わないから。・有名なものがないから。・日本とかかわりがない。・アフリカに興味がないから。野口博士に興味なかったから」といった感想が多く出ていた。それは本授業を受講している生徒達は「世界の国々や郷土に対する関心が薄く、自分に直接関係ないことには興味がない。そして知ることに対して主体性や意欲が薄いからだ。」と考えた。そこでまず、生徒達にこれからの授業で『世界の国々や郷土に対する関心が薄く、自分に直接関係ないことには興味がない自分自身に気づかせたい。』と思った。

次に3・4時限にガーナのおんぶの仕方やアイヌの神謡、ハワイのフラ、そしてジャンベという体験学習を通して、文化の違いに興味、関心を持たせようと考えた。すると「ガーナのおんぶは意外としっかりしていて文化の違いに驚いた。」「ガーナのお母さんは凄いなと思った。」「安全で工夫されている。」「ジャンベの技術は素晴らしい。」といった異文化理解への興味や関心がわき、「アイヌの神謡の語りを聞いてみたい。」「ジャンベを実際に聴いてみたい。」「いろんな視点から様々な考え方、見方ができるように自分の目で確かめて吸収していきたい」といった何々をしてみたいという意欲も読み取ることができるようになってきた。この中盤の授業あたりから発展途上国といわれているガーナ共和国にも素晴らしい文化があることを気づき始めてきたように思う。

5・6・7時限ではガーナ産のシアバターやチョコレートと日本の市場に出ているものを実際に使っ

たり、食べたりすることで「ガーナの加工技術と先進諸外国の加工技術に大きく違いがあることや人件費の違いがあることと、奴隷貿易として黒人が非人間的な扱いを受けていた歴史からガーナ共和国、ひいてはアフリカのおかれている世界的な立場を関連させよう。」と思った。シアバターについては「(シアの実際の)輸送にお金がかかるから(価格に差が出る)。「(大手メーカーのシアバターは)加工しているから(価格高い)。「(大手メーカーのシアバターはその)ブランド名で高い。「大手メーカーのシアバターはきれいにろ過するから」や「世界各国のチョコを試してみたい」「ガーナはチョコレートを作る技術は進んでいない」という先進国側にたった感想が多く出された。奴隷貿易に関しては「ひどい」「悲しい気持ち」「人種差別はあってはならない」「日本人だって同じ(人身売買の)ようなことをしている。「(人身売買のない)現代に生まれてきて良かった。」という非人間的な行為、人種差別の一点に感想は集中した。このようにシアバターやチョコレートと黒人の奴隷貿易とを重ねて、発展途上国、開発途上国と言われ常に弱い立場にたたされてしまうガーナ共和国について考えるところまでにはいたらなかったが、逆にこのシアバターやチョコレートの学習を通して「日本のチョコレートが一番美味しい」「日本に生まれてよかった。」という感想が出され、この自己肯定観につながる日本を愛する思いこそが国際理解の基本ではないかと私自身気づかされた。

本単元の最終授業となった8時限の「国際理解の意識を持つために自分はどんな事をすればよいだろう。」という問いかけに対しては「世界に目を向け、何事にも興味を持つことが大切。」「教科書で習っていないから知らないのではなく自分から関心を持たなければならない。」という感想がいくつかがあがった。これは本実践授業の1・2時限のときに私がねらったことが達成したことを意味している。また、「広い視野に立って世界に興味関心を持つことが大事であること」に気づいたり、「自分から他国の情報を調べたり、学んだりしていくことが大事。」と主体性を持って考える生徒も多くいた。中には「世界の国ぐにも興味湧いてくる。まず、私個人が日本が誰かに助けられているという意識を持つ。」という日本は発展途上国を支えているだけでなく、衣・食・住のあらゆる面で支えられていることに気づいたり、「世界の中の日本の立場を知る。」「偏見を失くし、他国を尊重する。」「このガーナの授業で知ったように様々な国を知るべき、調べるべき。」という国際理解・国際協力への意識を感想に書きとめる生徒が出てきたことは大きな成果だったと思われる。また、これらは、短時間ずつではあったが数回にわたる授業の構成によってガーナ共和国を身近に感じる事ができたからではないかと思う。

しかし、この実践授業のねらいは8回の小授業で完結するわけではない。22名の生徒たちが将来、未来を担うよき隣人・よき国際人・よき地球人として、国際理解・国際協力の意識を持ってささやかなことであれ、地域に、郷土に、世界に貢献しようと感じたとき、そして行動にうつしたとき、そのとき本実践授業のねらいは長い熟成期間を経て醸成できたということになるのではないだろうか。教育とは、自動販売機のようにボタンを押してすぐに結果が現れるものではない。それはまるで果実の種を植えて、長い時間をかけてようやく花が咲き、実がなることに似ている。私はこのガーナ共和国視察研修による実践授業を通して22名の生徒達の心の中に、将来花を咲かせるであろう小さな種を撒かせてもらったように思っている。いつの日かその種が結実する日が来るのかと思うと楽しみでならない。そう考えると国際理解・国際協力とは、素晴らしい人間教育の一手法であると思う。

## V 課題

本実践授業のテーマは、小・中学校の道德教育に通じているように感じた。「国際理解・国際協力とノーマライゼーション」の重要性は生徒自身の気づきに始まり、生徒自身の価値の獲得によるところが大きいからである。これらの価値の獲得にあたっては生徒自身に「自己肯定観・愛校心・郷土愛・自分の国を誇りに思う気持ち」がなければ難しい。知識としては理解できても、自分に自信を持ち、自分の学校や郷土を愛し、自分の国を誇りに思う気持ちがなければ、異文化を理解し、尊重することはできない。これらの授業を展開するにあたっては、先にあげた自分の国を誇りに思う気持ちを育むような教育活動をあわせて行うことが課題となってくる。また、私自身がガーナ共和国に行って見てきた事、聞いてきた事、味わってきた事という体験をしたことが授業に大きく役立ったように、生徒自身にも教科書に書いてあることだけで学ばせるのではなく、修学旅行などを通して海外に行き、実際に異文化を体験させる機会を作ること今後の課題ではないだろうか。

## VI. 出典（参考文献）

- ・「野口英世」 井出孫六 著 岩波出版
- ・「あふりかのたいこ」 瀬田貞二 作 寺島龍一 絵 福音館書店出版
- ・「サラガのバオバブ」 米山博子 文 エドモンド・オバレ 絵 新日本出版
- ・「アフリカの音」 沢田としき 講談社出版
- ・「アメージング・グレース物語」 ジョン・ニュートン 著 中澤幸男 編訳 溪流社出版
- ・「ガーナ 混乱と希望の国」 高根 務 著 アジア経済研究所出版
- ・「フェア・トレードを探しに」 三浦史子 著 (株)スリーエーネットワーク出版
- ・「謎を秘めた 古代ビーズ再現」 臼井洋輔 著 吉備人出版
- ・「高校生のための国際協力入門」  
編者 秋田市立秋田商業高等学校ビジネス実践・国際協力課 アルテ出版